

鹿児島県に渡来するツル類の調査

この調査は、環境庁国立機関公害防止等試験研究費を得て昭和60年度より5年間の予定で行われるものである。

課題番号 114	課題名 人間活動との共存を目指した野生鳥獣の保護管理に関する研究 (2) 国際保護鳥ナベヅル、マナヅルの保護・管理手法
担当機関	国立科学博物館(文部省)
担当部課	国立科学博物館附属自然教育園
担当研究者	井澤 純
研究期間	昭和60年度～昭和64年度
研究の目的	ナベヅルの世界における唯一の越冬地として世界中から関心を集めている鹿児島県出水水平野(約7,500ha)におけるナベヅル・マナヅルは、越冬数約8,000羽といわれており、不測の事態が生じた場合には世界的に絶滅する危険が考えられる。また、人間の生活、経済環境への被害問題も生じているため分散策なども講ずる必要がある、そのための生息密度、行動生態、渡来等の実態調査、並びにねぐら、餌場としての自然環境要件を研究する。以上の成果をもとに、野生鳥獣とその生息環境の保護、管理手法を確立する。

本研究は、国立科学博物館附属自然教育園が実質的に実施するもので、研究を円滑にするため、自然教育園の組織の中に研究者および行政関係者で構成される調査研究委員会を設置し、その下にワーキング・グループを設けてある(一部 財団法人 日本鳥類保護連盟に調査を依頼)。

昭和60年度調査研究委員会委員名簿

委員長	加藤 陸奥雄	宮城県立美術館長
委員	大野 正男	東洋大学教授
〃	黒田 長久	山階鳥類研究所副所長
〃	沼田 真	千葉大学名誉教授
〃	佐野 弘	環境庁自然保護局鳥獣保護課長
〃	田村 誠	文化庁文化財保護部記念物課長
〃	桜井 信夫	〃 主任調査官
〃	千羽 晋示	国立科学博物館附属自然教育園主任研究官

(昭和60年度ワーキング・グループについては省略)

本研究は、これまでの経緯から文化庁、環境庁、鹿児島県教育庁、出水市教育委員会、野田町教育委員会、高尾野町教育委員会をはじめ、地元小中学校、ツル保護にたずさわっておられる多くの方々のご理解とご協力を得て着手したものであり、謝意を表すとともに今後より一層のご助力をお願いするものである。

調査研究の成果は、各年度末に報告書としてでるが、自然教育園報告にも新・旧の資料を問わず本研究に関する研究報告を掲載することとし、広く意のある方々に知っていただくように考えている。(千羽晋示)